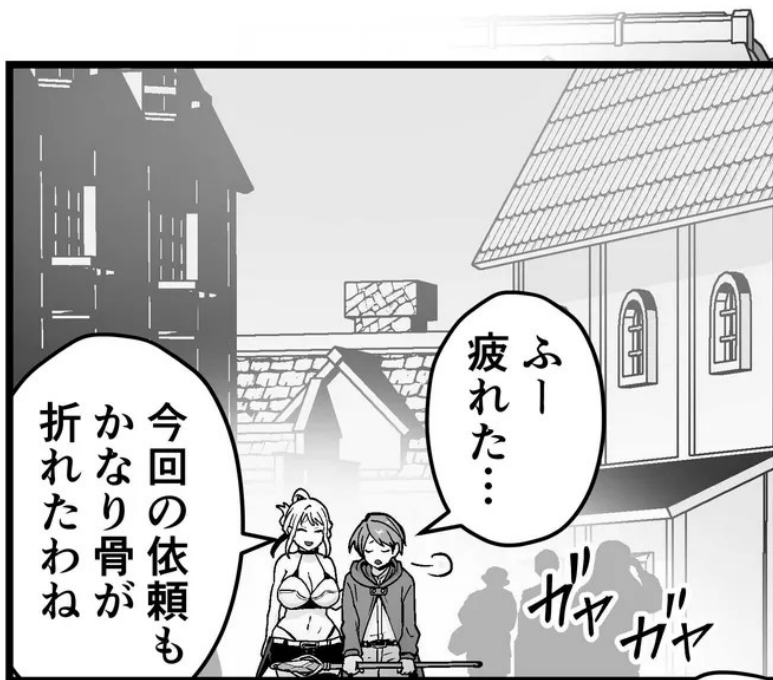


















…  
どうなっても…か



お願い！  
マルクを助けて！

私は  
どうなっても  
良いから！



器の巫女が  
そこまでいうなら  
仕方が無いな

貴様が我らの儀式で  
快楽に堕ちることが  
なければ

母胎の適性  
無しとして  
2人とも  
見逃してやろう



来い  
こっちだ

レナ！

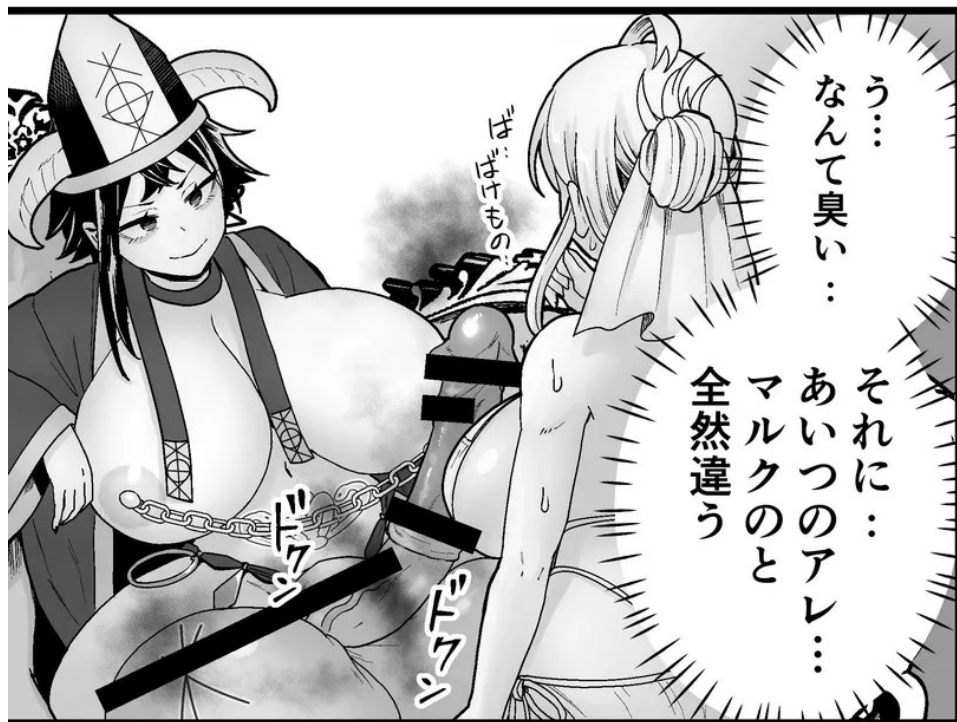


レナ…

大丈夫…私…  
あなたの為なら  
どんな事でも  
耐えて見せる！

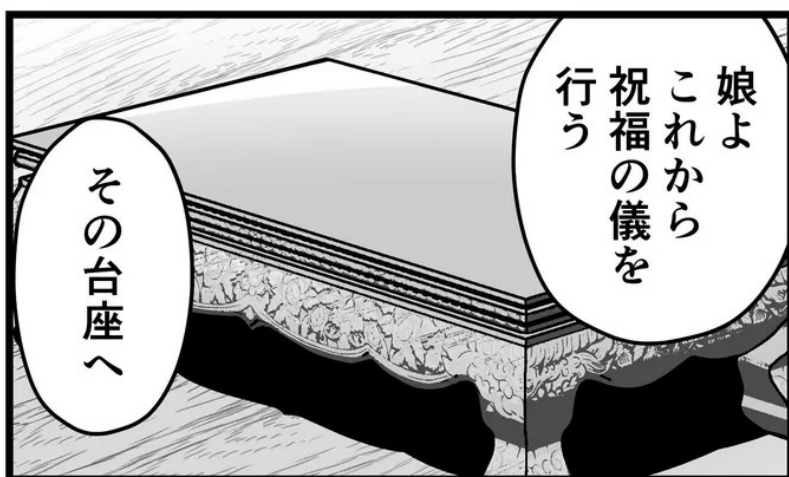






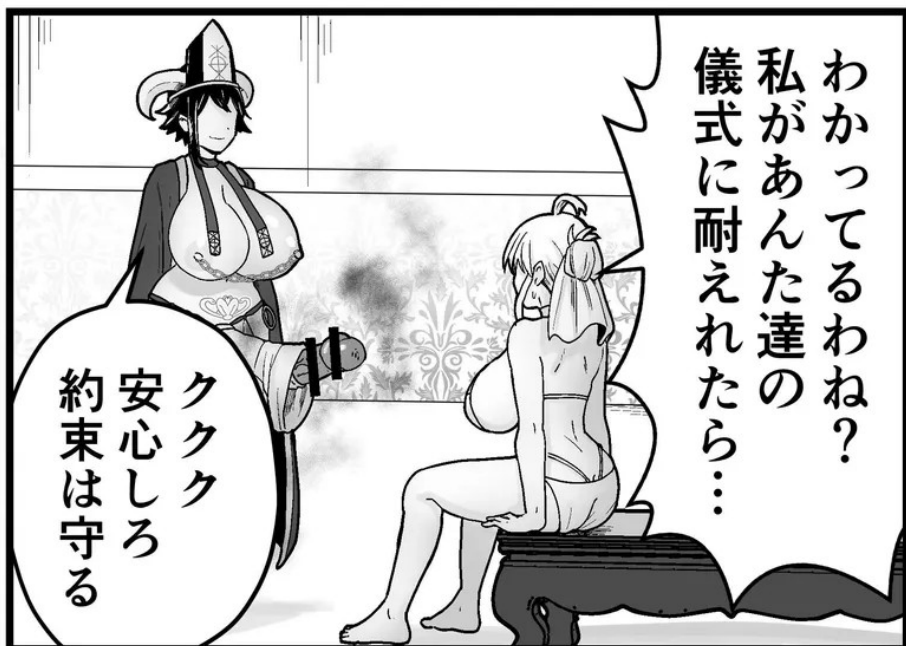
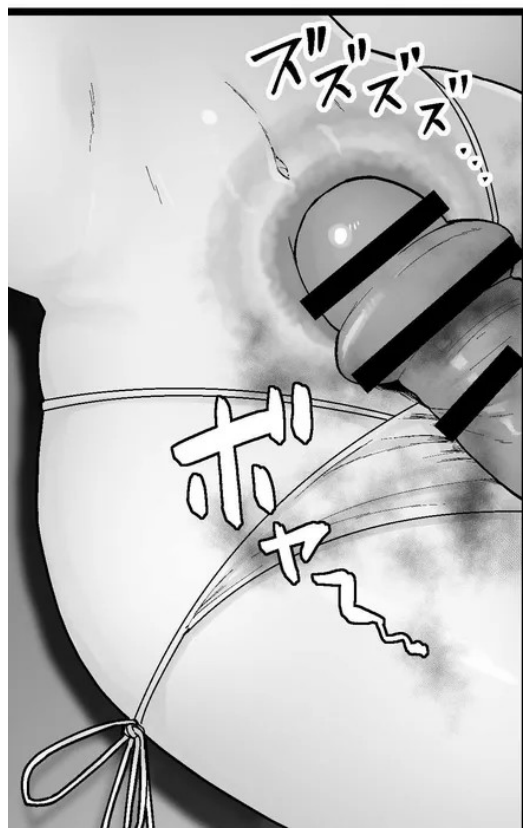
う…  
なんて臭い…

それに：  
あいつのアレ…  
マルクのと  
全然違う



娘よ  
これから  
祝福の儀を  
行う

その台座へ



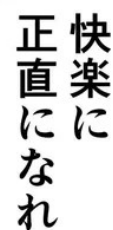
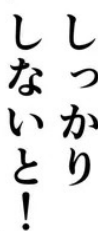
わかってるわね？  
私があんた達の  
儀式に耐えれたら…

ククク  
安心しろ  
約束は守る





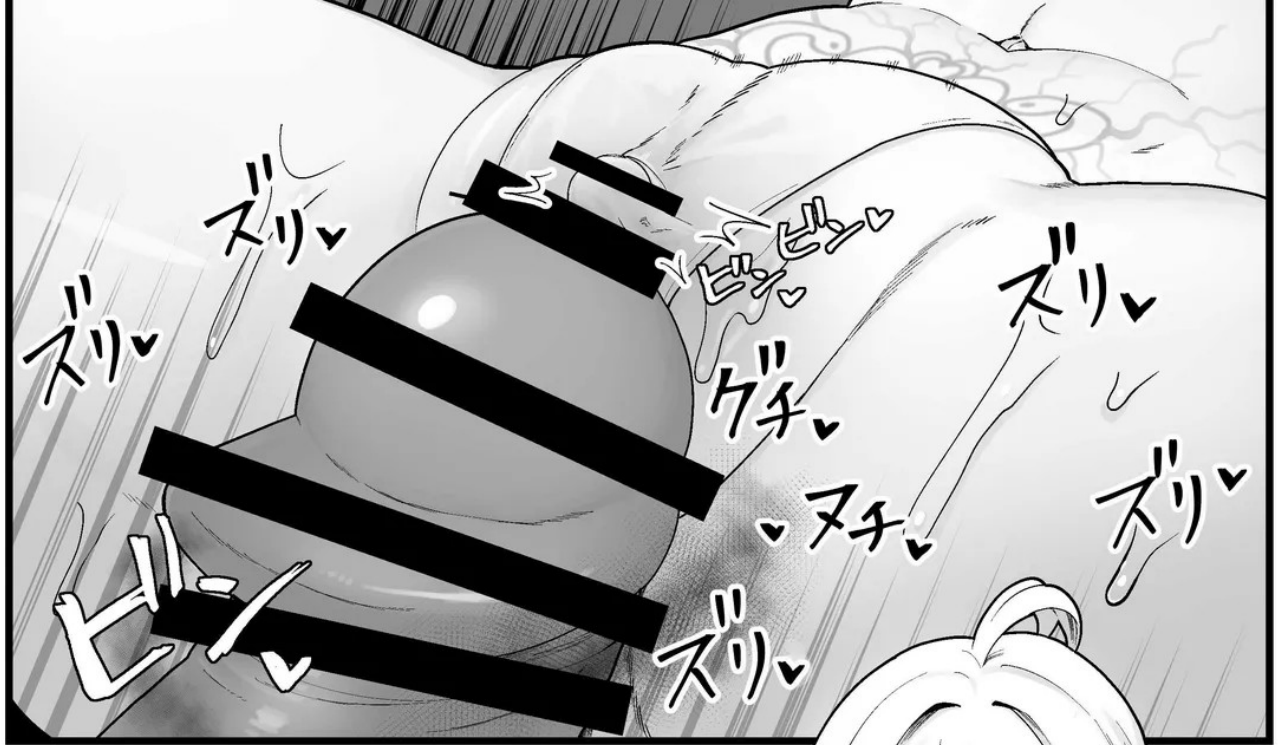




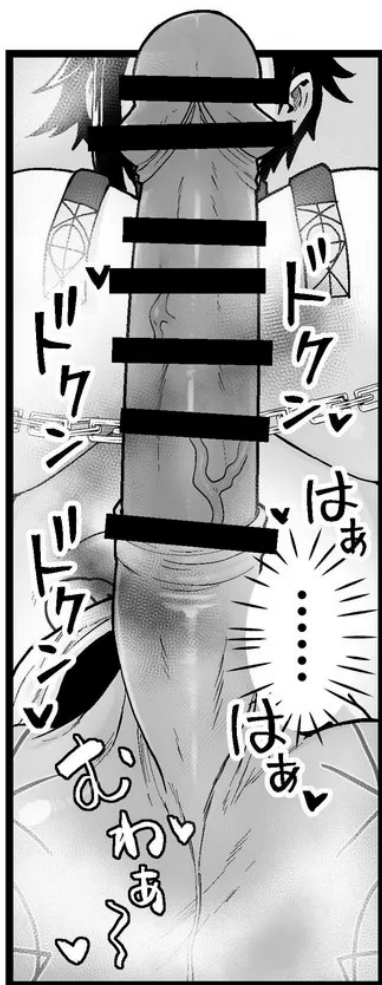
あの男は貴様を  
そこまで乱して  
くれるのか？

ああ！グウ！！  
そ…そんなこと  
当然じゃ…ああ♡！！









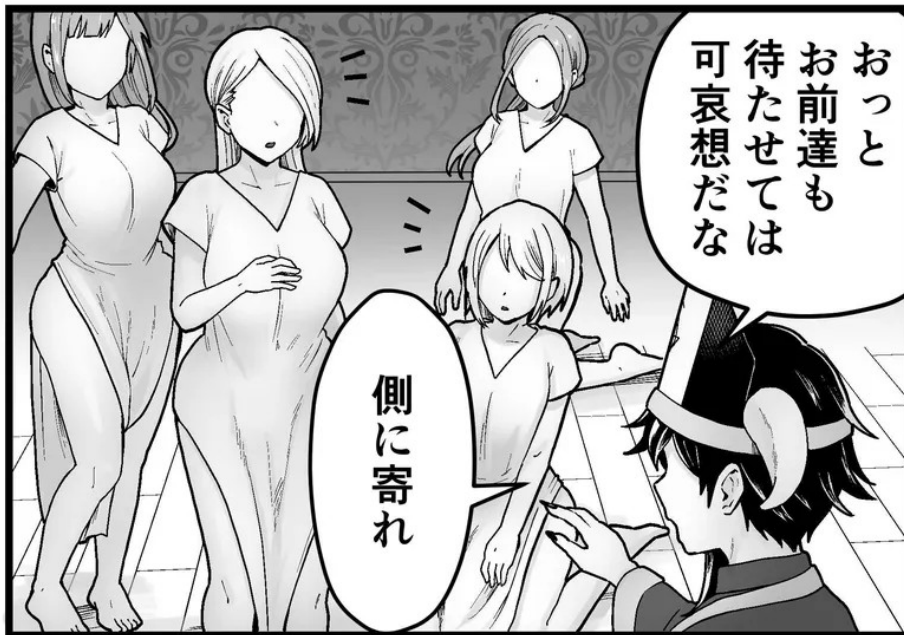












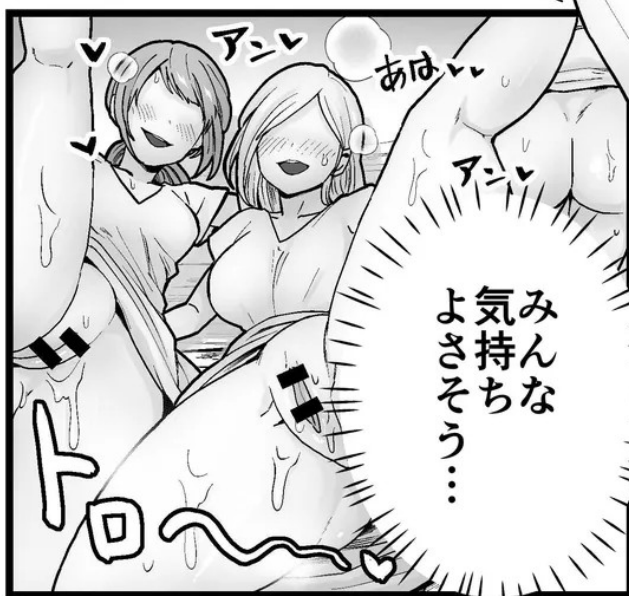




あんなに  
大勢と…

すごい…

オオ  
オオ  
オオ



みんな  
気持ち  
よさそう…

トロ〜



オオ



私も…ここに…

…ああ!

ムラ  
ムラ

ドクン  
ドクン

あんな風に私も…  
奥まで…ダメよ…  
ああ…マルク…



私は  
さわってすら  
もらえないのに…

ムラ  
ムラ

はあ  
はあ



ここまで主様の  
誘惑に耐えた者は  
初めてだ...







あああ！♡絶対無理！  
もう我慢出来ない！  
こんなの♡♡♡



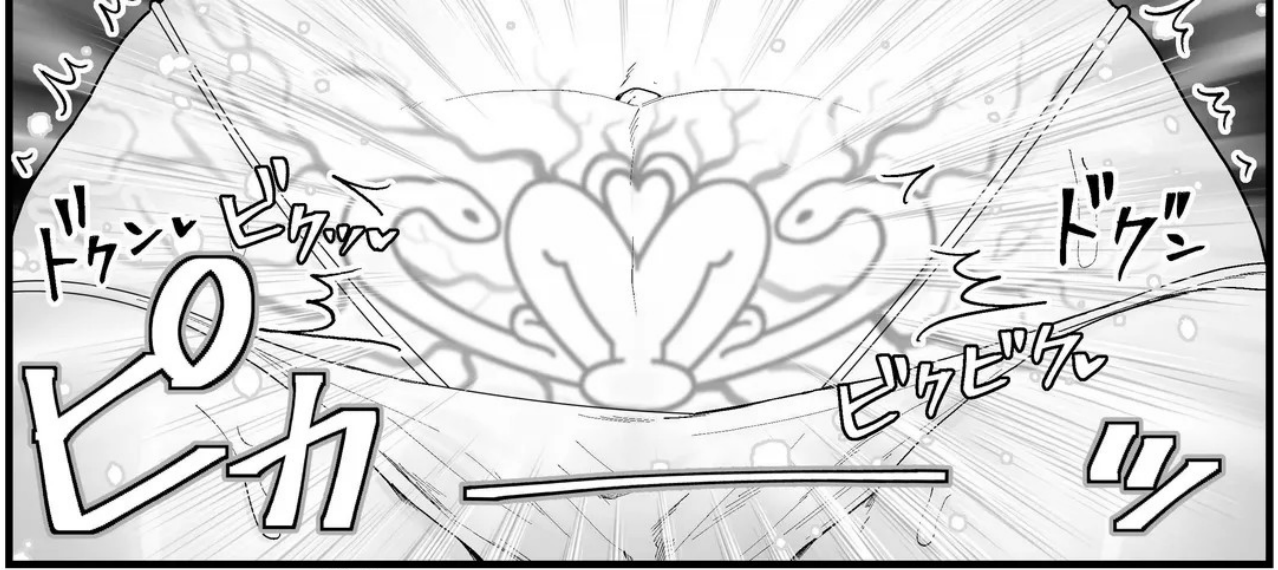
こんなの  
嘘みたい♡  
マルクのじゃ  
考えられない♡



口で啜えた  
だけなのに  
子宮まで  
気持ちいい！







おおおおイグ!

んんん...  
あああ...  
イ...ク...ッ!!

イツグウ!

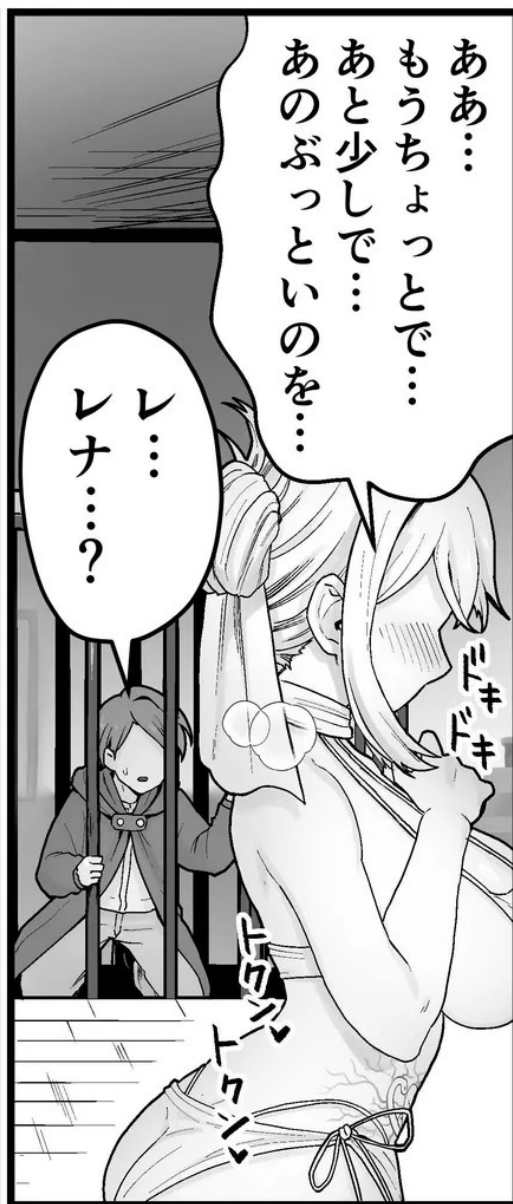
ピカ

ガクガク

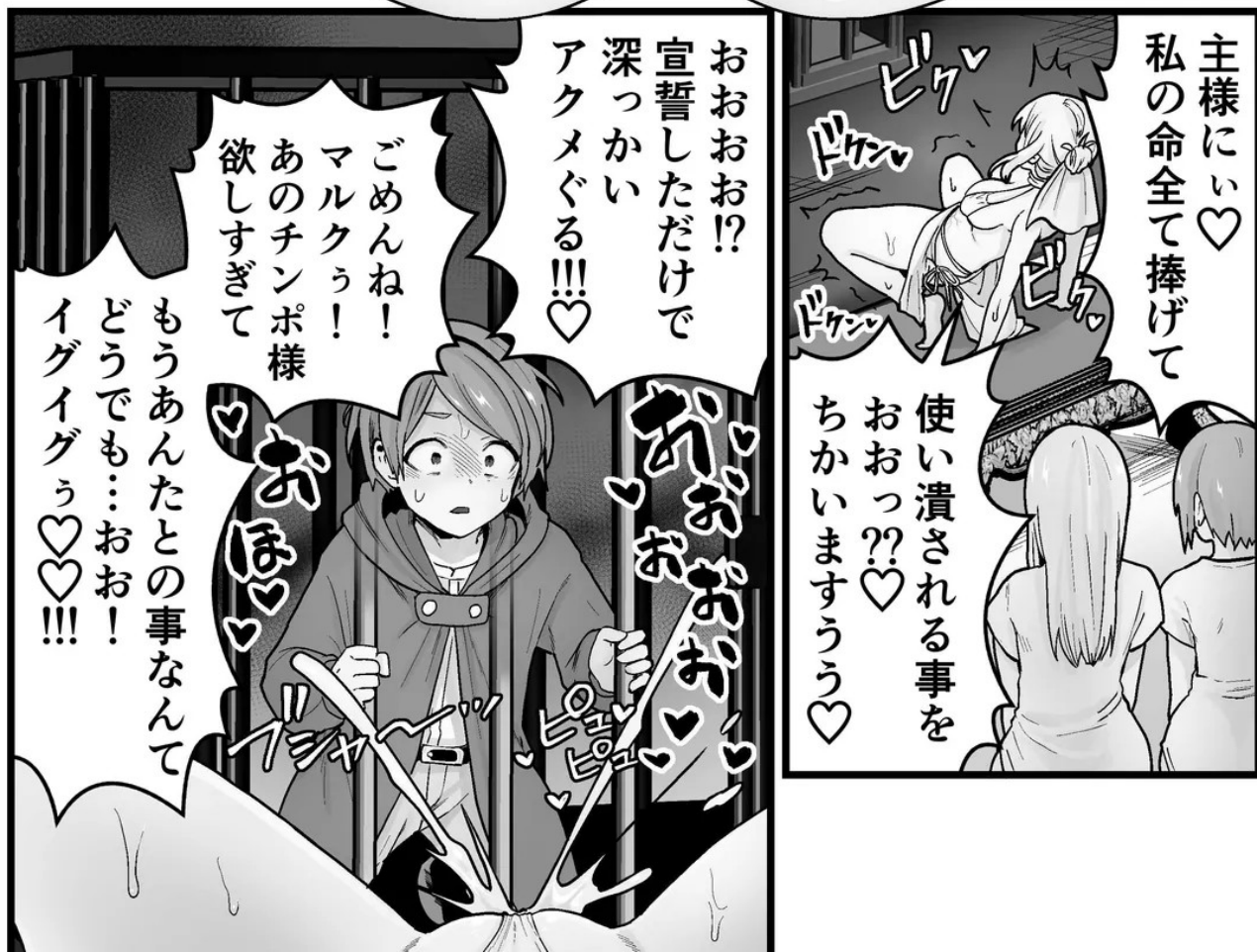


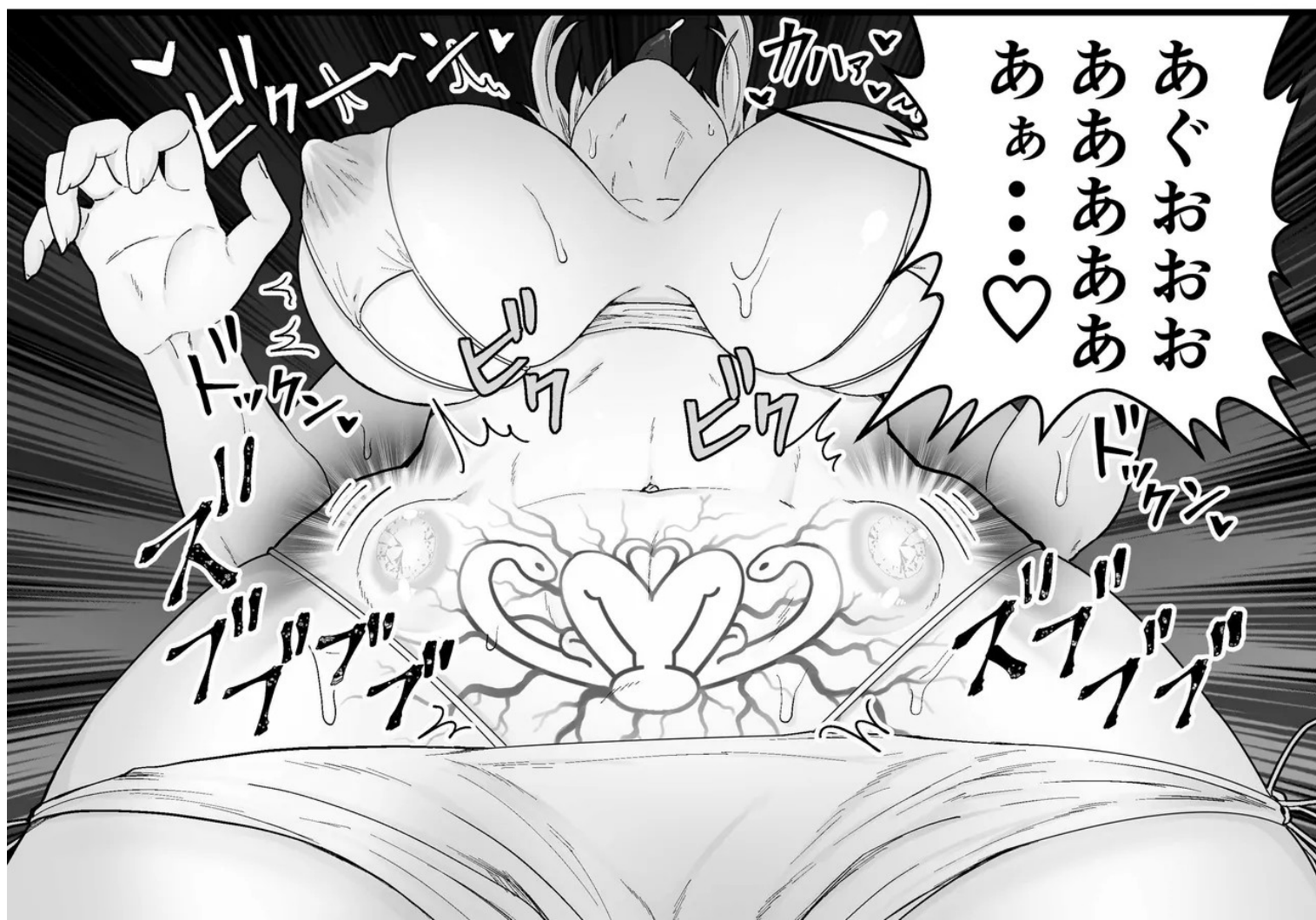
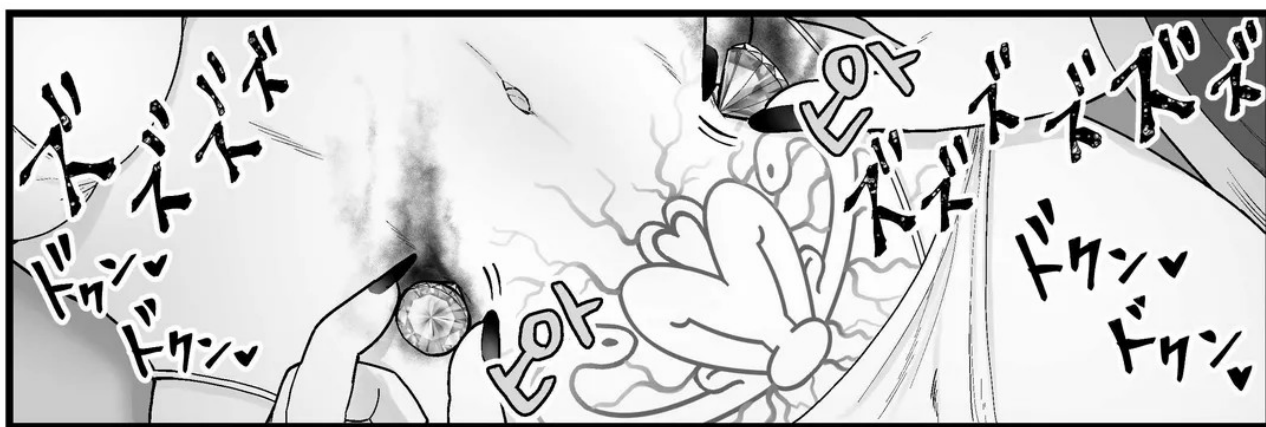






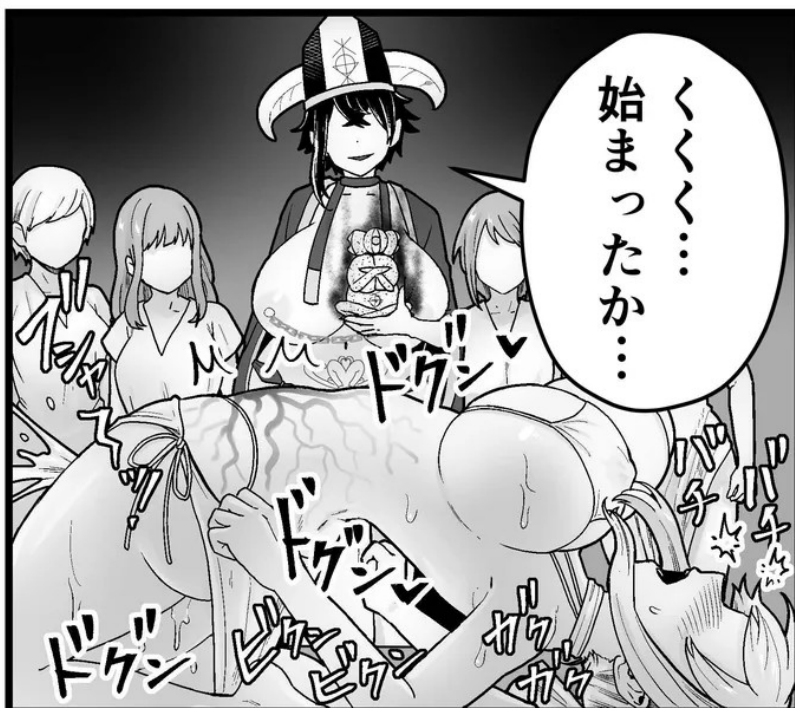


































あ...  
そうだった...

私...マルクの...

元気な  
男の子が  
いいな

子ども...







お：  
ふおおお  
おお♡

お！  
おほお♡！  
ドクン

んおおお♡

ドクン

ハッ！  
オ！！  
ビ！！

ブルン

タキ♡  
タキ♡

タキ♡

ブルン

三々  
三々

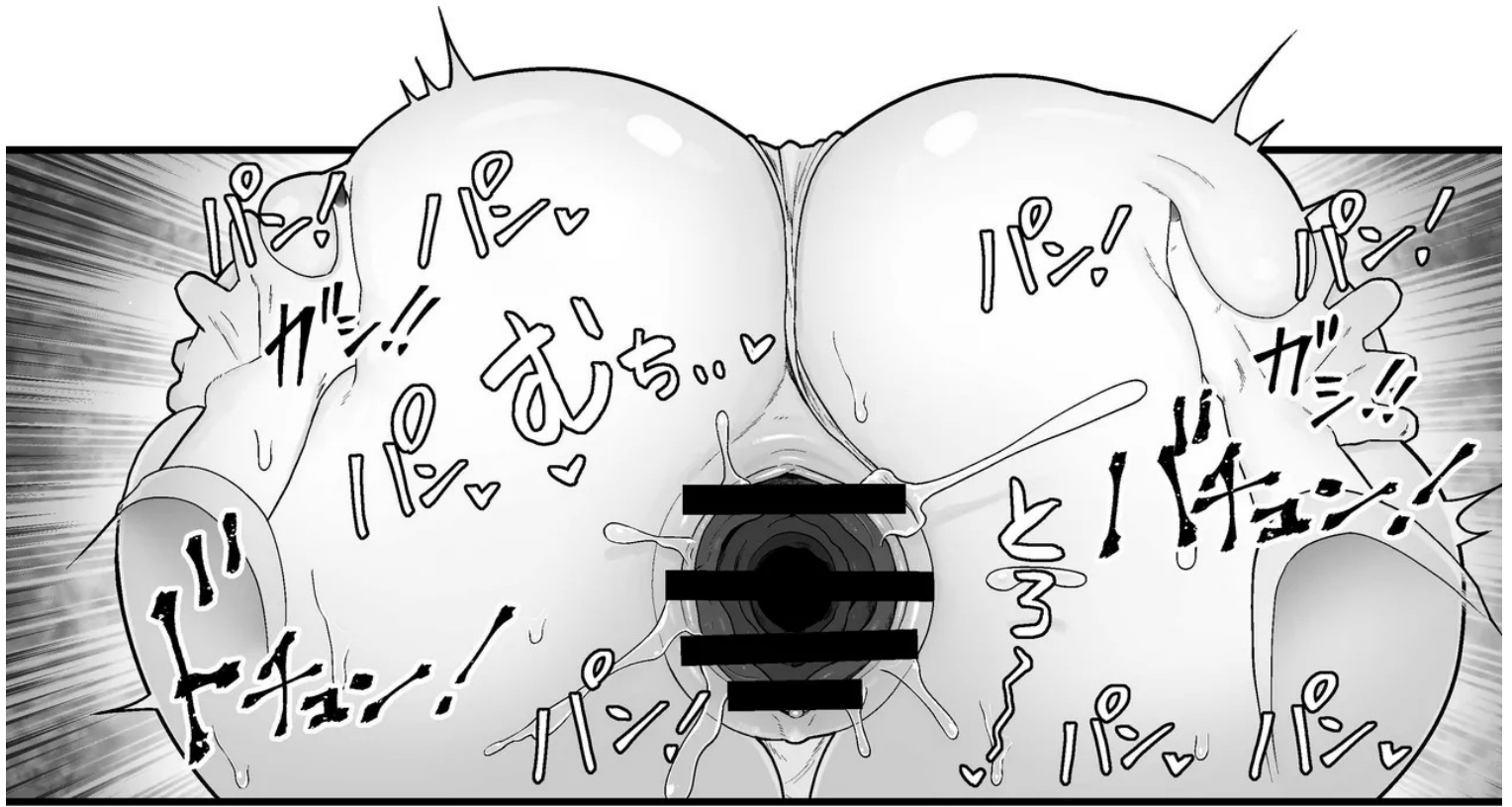
ガク  
ガク

ドクン

ドクン

ドクン

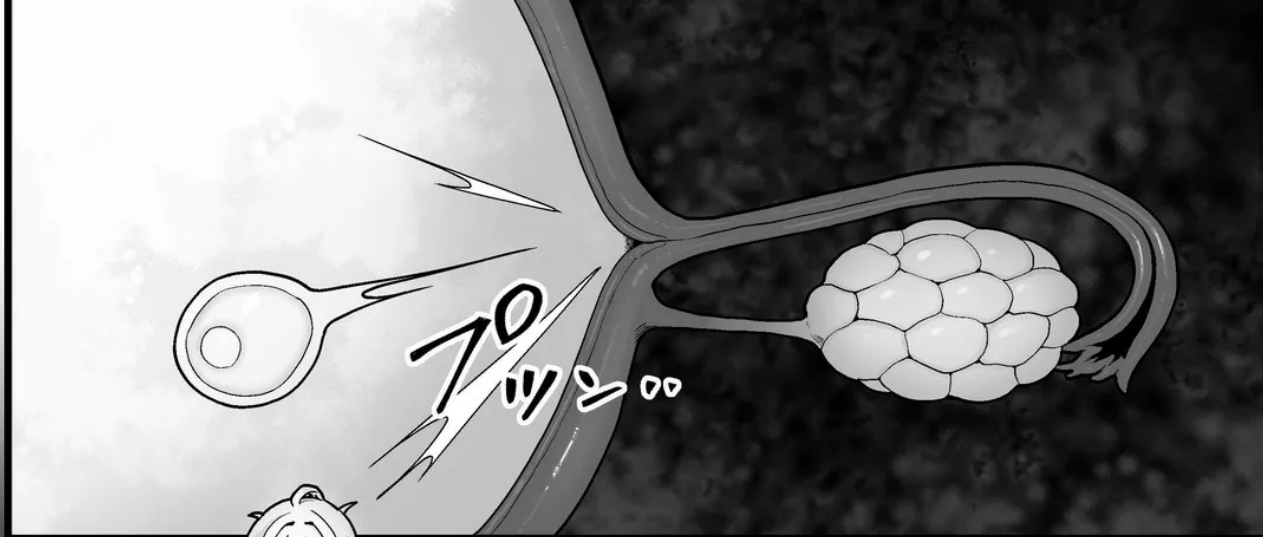
ドクン

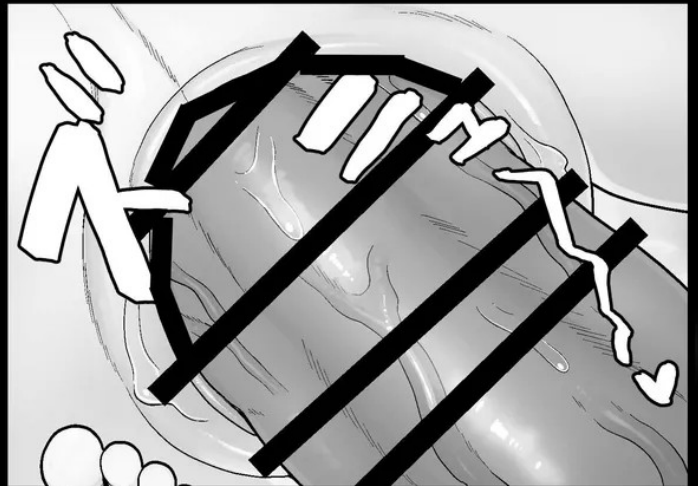








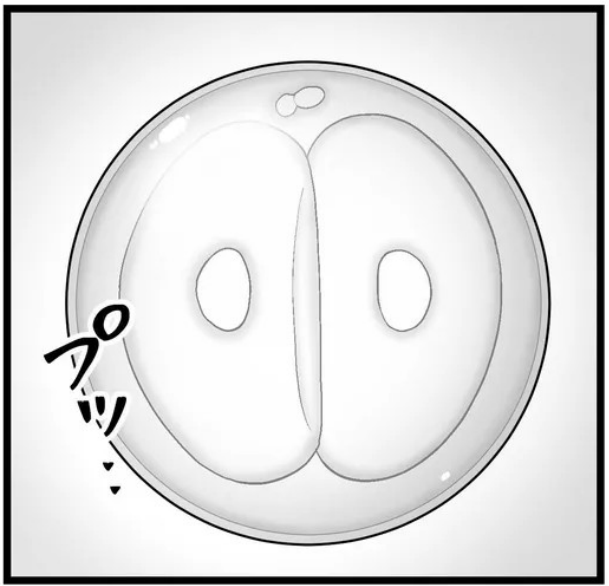
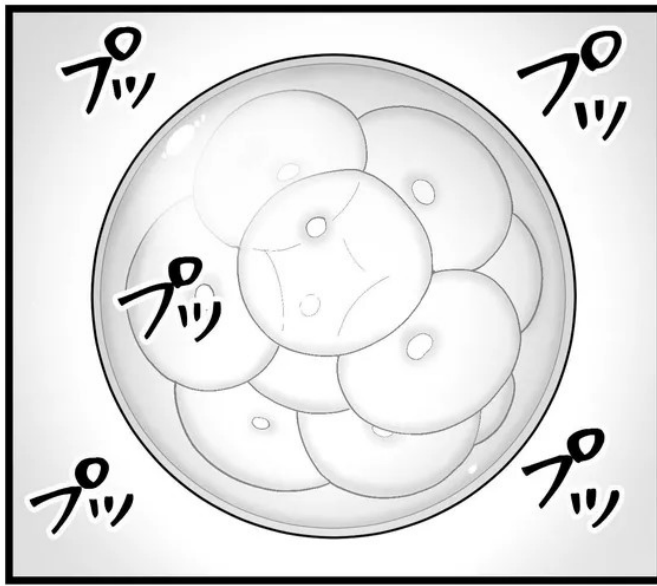






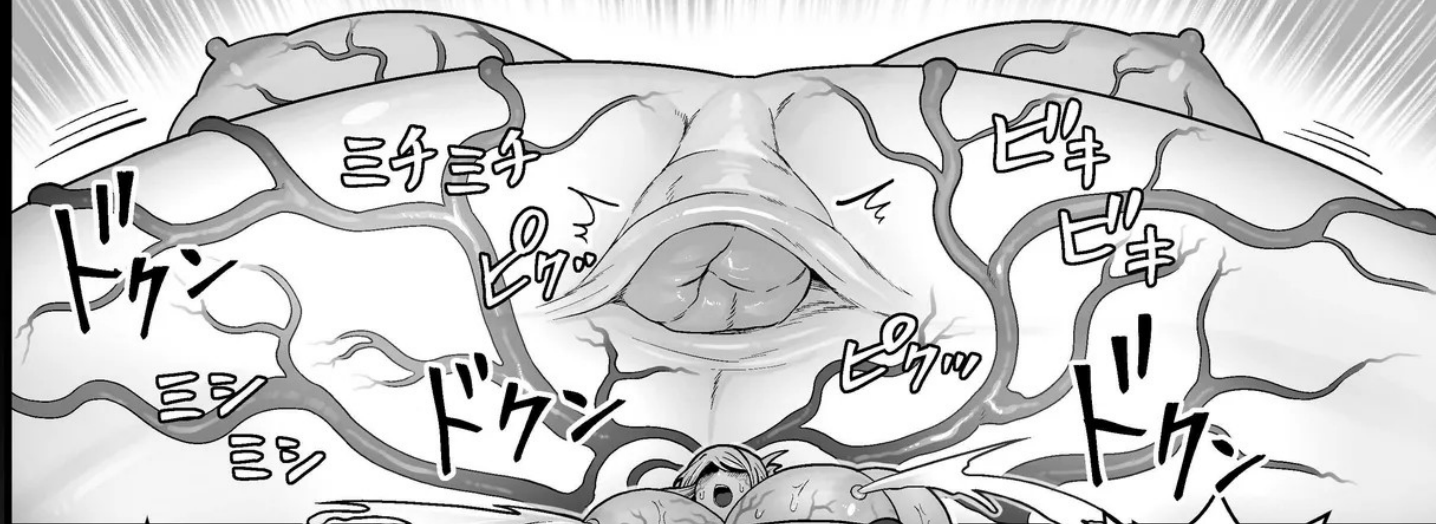






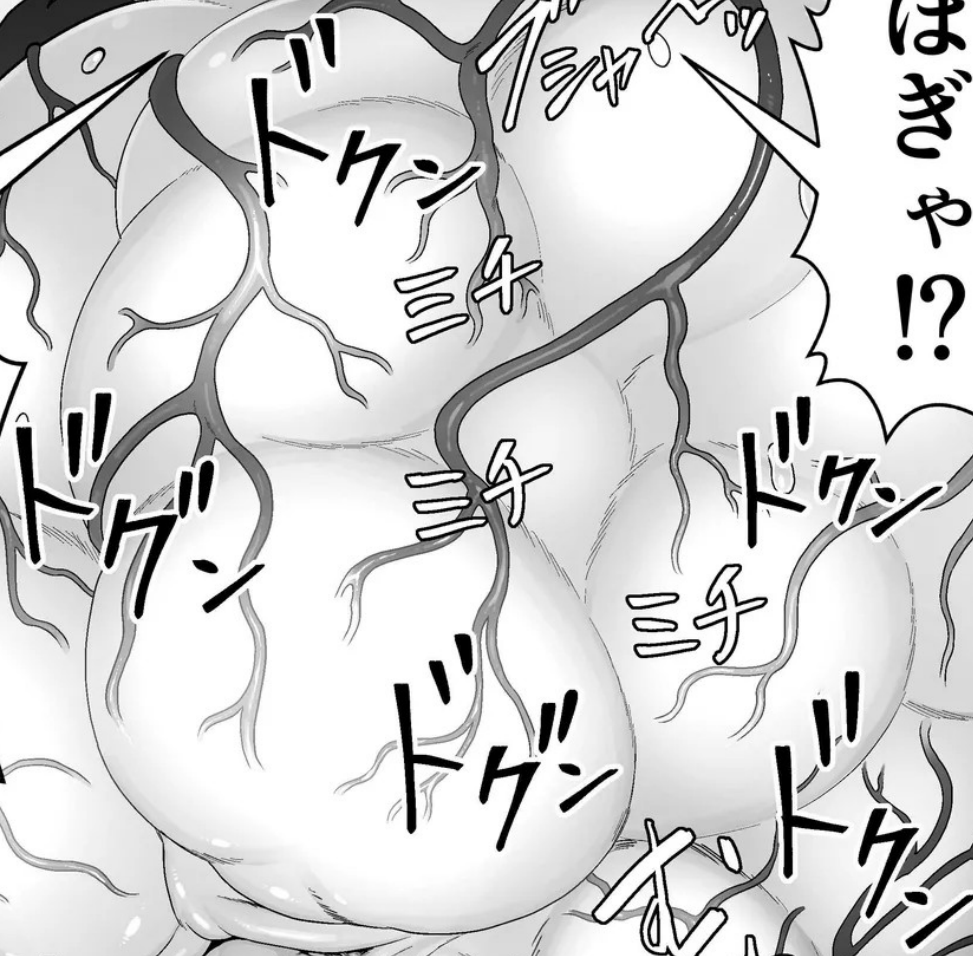






ぎゃ  
おお  
おお  
おお  
!!!

ほぎゃ!?



わあ  
あー











後に  
冒険者組合の  
搜索隊が

2人を探したに  
ここを訪れたに

搜索隊は  
変わり果てた  
レナを発見



遺体の調査結果と  
邪教徒達が  
遺した記録から

凶悪な悪魔の  
復活が発覚

マルクと悪魔は  
未だ見つかった  
いない

